

# 鹿児島県水土里情報システム活用事例

## ミカンコミバエ防除対策としての活用

### 取組概要

内容: 害虫ミカンコミバエの緊急防除対策として、ハエの誘殺板(テックス板)の空中散布を行う必要がある。地図情報システムであるMK3D-Mapsを用いて、オルソ画像や標高データ(DSM)から瞬時に地形状況を的確に把握し初動時の迅速な対策を行うことが可能である。

経緯: ①ミカンコミバエは、標高100m以下の範囲に好んで生息するため、MK3D-Mapsを用いて標高100m以下の地域を着色したい。  
②テックス板の散布枚数は、標高300m以下が3枚/ha、300m以上は2枚/haとなっており、ヘリコプターの飛行ルート算定のため20m間隔の等高線図を作成したい。



(上図) 標高20m間隔の等高線図  
(右図) 標高100m以下範囲をピンクで着色

### 今後の活用

- ・GPS機能を用いることで、誘殺トラップの設置場所をGIS地図上に図化することができる(情報の一元管理を実現)。
- ・誘殺トラップでの駆除確認数を入力することで、現状確認が視覚的に分かる。
- ・地上トラップ位置と、散布飛行ルートを図化することで設置不足箇所を把握することができる。